

# 北海道東部の爬虫類

— 知床博物館のコレクションから —

太田英利<sup>1</sup>・中川元<sup>2</sup>

1. 606 京都市左京区北白川追分町 京都大学理学部動物学教室
2. 099-41 斜里郡斜里町本町 斜里町立知床博物館

北海道に分布する爬虫類としては、これまでにニホンカナヘビ *Takydromus tachydromoides*, コモチカナヘビ *Lacerta vivipara*, ニホントカゲ *Eumeces latiscutatus*, アオダイショウ *Elaphe climacophora*, シマヘビ *E. quadrivirgata*, ジムグリ *E. conspicillata*, アカジムグリ *E. japonica*, ニホンマムシ *Agkistrodon blomhoffii blomhoffii*の8種が報告されている(Stejneger, 1907; Kuhneほか1910; 木場, 1932; 犬飼ほか, 1972。このほかヒバカリ *Amphisma vibakari*とシロマダラ *Dinodon orientalis*の報告もあるが(八田, 1909; Inukai & Mukasa, 1943) 記録そのものおよび自然公布かどうかの点で疑わしいため、ここでは除外した)。これらの記載・研究の多くは道央部以西で行われ、これに対し東部における爬虫類の生息状況その他の調査は極めて不十分で、ごく少

数かつ断片的な報告があるに過ぎない(たとえば木場, 1932; Inukai & Mukasa, 1943; 大石, 1961)。知床半島周辺(図1)は貴重な野生生物の宝庫として知られ、近年総合調査も行われたが(北海道生活環境部自然保護課, 1981)、爬虫類はその調査対象とはなっておらず、わずかにニホンカナヘビが大石(1961)によって報告されているのみである。ここではこの地域の爬虫類相に関する一資料を提供する目的で、斜里町立知床博物館に収蔵されている斜里・標津両郡産標本を紹介する。

なお本文をまとめるに当り、知床地域の生物およびその資料について御教示下さった京都大学農学部吉村健次郎助教授、および博物館に貴重な標本を寄贈して下さいました皆様に厚く感謝致します。

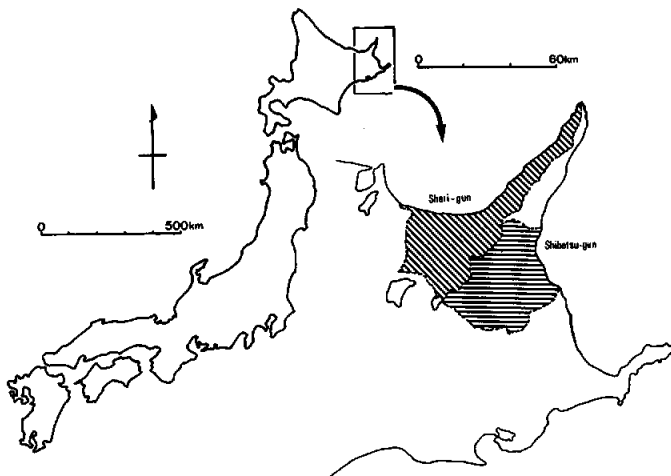


図1. 北海道東部、知床博物館所蔵爬虫類標本の採集地を示す。

Fig.1. The map of the eastern Hokkaido, showing the sampling localities of the specimens of reptiles deposited in Shiretoko Museum.

## 知床産爬虫類目録

有鱗目 Squamata

トカゲ亜目 Lacertilia

カナヘビ科 Lacertidae

ニホンカナヘビ *Takydromus tachydromoides*

トカゲ科 Scinkidae

ニホントカゲ *Eumeces latiscutatus*

ヘビ亜目 Ophidia

ナミヘビ科 Colubridae

アオダイショウ *Elaphe climacophora*シマヘビ *E. quadrivirgata*ジムグリ *E. conspicillata*

クサリヘビ科 Viperidae

ニホンマムシ *Agkistrodon blomhoffii blomhoffii*

## 標本の記載

標本のうちニホントカゲの計測値を表1に、ヘビ類の計測値を表2に示す。なお以下の記載中、色相は70%エチルアルコール液浸状態のものであり、また鱗板の名称は原則的に中村・上野(1963)に従う。

ニホントカゲ *Eumeces latiscutatus*

標津郡標津町川北温泉、3VR13-1-663a, b, VIII 26, '79 (図2-a)。

2個体ともに幼体で、1個体は雄、もう1個体も生殖腺がやや不明瞭ではあるが雄と思われる。

胴部には黒褐色の地に5本の青白色の縦条がはしり、このうち正中線上の1本(dorsal line)は頭頂間板(interparietal)の後縁で2分し各々左右の前額板(prefrontal)上で、眼上板(supraoculars)の外側縁をはしる側上線(dorsolateral line)と合流し吻端に到る。これらのさらに外側をはしる側中線(lateral line)はそけい部より前肢基部上方、耳孔中央、上唇板(supralabials)下縁を経て吻端に到る。これらの縦条間の暗色部は尾の中央よりやや後方寄りに達する。腹面は四肢を含めて一様に青灰色である。

後鼻板(post nasal)は1枚、胴中央部の体鱗は26列である。

アオダイショウ *Elaphe climacophora*

斜里郡斜里町岩尾別、3VR16-3-631、X 1、'83 (図2-b)、同町カムイワッカ、3VR16-6-

634、VII 22、'80、

雌雄の幼体各一個体。

ともにFukada(1956)の斑紋型(blotched type)で、淡褐色の地に背中には黒くふちどられた暗色斑が並び、左右の体側にもやや小さな暗色斑列が見られる。腹面は灰色で暗色小斑が散在する。

体鱗列数は23(頸部)-23(胴中央)-18ないし17(肛門前)、側頭板(temporals)数は2+3+4、腹板および尾下板数は雌雄各々229と93、223と102である。

シマヘビ *E. quadrivirgata*

斜里郡斜里町文光町、3VR16-1-629、IX 19、'81(図2-c)、同町大栄、3VR16-2-630、VI 24 '83、同町文光町、3VR16-4-632、X 15、'83、同町岩尾別、3VR16-7-636、IX 21、'81、同町本町、3VR16-8-637、IX 6、'80、斜里郡、3VR16-9-638、採集年月日不明。

雌雄ともに成体、亜成体、幼体各1個体。

背面は淡褐色で、幼体では褐色の横斑が背中に並ぶ。この横斑は後方では薄くなり、尾端では消失している。頸部背面には2本の暗褐色の縦縞がある。頭部側面には2本の暗褐色の棒状斑が眼後域・頭頂域から口角後方にかけて平行にはしり、眼前縁間にも暗褐色斑がある。吻部および上・下唇板には細かい暗色斑が散在し、腹面は灰白色である。成体では眼後域の棒状斑を除く頭・胴部の斑紋は消失し、胴部背面に4本の縦条が現われる。亜成体の体色は幼体斑の消失と縦条の出現という過程の中間段階を示している。3VR16-8-637の成体雄はいわゆる黒化型で、灰白色の頭頸部腹面を除き全身黒褐色であり、背面を4本の黒色縦条がはしっている。

体鱗列数は22-19-17、21-19-17、ないし21-17-15、側頭板数は2+2ないし2+3、腹板数および尾下板数は雄で192-197と74-81、雌で189-198と73-78である。

ジムグリ *E. conspicillata*

斜里郡、3VR16-11-640、採集年月日不明(図2-d)。

成体雌。

背面は一樣に褐色で、頭部および頸部には本州のものに比べて少数の黒斑がある。体の他の部分には黒斑は見られない。腹面は頭部および頸部前方では淡橙色で、第3腹板の中央より黒色部が

表1. 標津郡で採集されたニホントカゲの測定値 (mm) と鱗板数

Table 1. Measurements (in mm) and scale counts of *Eumeces latiscutatus* collected in Shibetsu, eastern Hokkaido.

No.	Sex	Age	SVL	Tail*	HL	HW	HLL	Scale** rows	Mid- dorsals	4th toe subdignits	Supra- labiaals	Infra- labials
3VR 13-1 663-a	male	young	47.0	83.5	10.0	7.15	20.0	26	51	16	8	7
3VR 13-1 663-b	?male	young	32.5	49.5	7.7	5.25	15.1	26	49	17	8	7

\* Both of the specimens have original tails without regenerated portion.

\*\* Conuted in the middle of the body.

表2. 斜里郡で採集されたへビ類の測定値 (mm) と鱗板数

Table 2. Measurements (in mm) and scale counts of the snakes collected in Shari, eastern Hokkaido.

Species	No.	Sex	SVL	Tail	Scale rows*	Ventrals	Sub- caudals	Supra- labials	Infra- labials	Temporals
<i>Eclimacophora</i>	3VR16-3 631	male	306.0	85.0	23	223	102	8	11	2+3+4
ditto	3VR16-6 634	female	320.0	83.5	23	229	93	8	11	2+3+4
<i>Equadrivirgata</i>	3VR16-1 629	male	246.0	59.5	19	196	74	8	9	2+2
ditto	3VR16-2 630	male	430.0	109.0	19	197	81	8	10	2+2
<i>Equadrivirgata f. atra</i>	3VR16-8 637	male	813.0	213.5	17	192	81	9-8**	10-9**	2+3
<i>Equadrivirgata</i>	3VR16-4 632	female	214.5	53.0	19	193	73	8	10	2+2
ditto	3VR16-9 638	female	533.0	142.0	19	189	78	8	10	2+3
ditto	3VR16-7 636	female	838.5	209.0	19	198	77	8	10	2+3
<i>E.conspicillata</i>	3VR16-11 640	female	745.0	160.0	21	215	64	7	10	1+2
<i>A.b.blomhoffii</i>	3VR19-1 626	male	586.0	97.5	21	139	47	7	10	1+3+4
ditto	3VR19-2 627	female	503.0	95.0	21	141	46	7	10	1+3+5

\* Counted at the middle of the body

\*\* right- left

後方に向けて拡がり、頸中央部以後では腹板全幅にわたり黒色となっている。尾下板は灰色で、左右の縁は暗色を帯びている。

体鱗列数は23-21-19、側頭板数は1+2、腹板および尾下板数は215と64である。胴後半部の背中周辺の鱗には弱いキール（鱗の中央を頭尾方向にはしる隆起）が認められる。

ニホンマムシ *Agkistrodon b. blomhoffii*

斜里郡斜里町オシンコシン、3VR19-1-626 (図2-e), X29, '83, 同オシンコシン、3VR19-2-627 VII19, '83,

雌雄成体。

背面の地色は淡褐色で、626では隋円形の暗褐色紋が背中の中側に一列ずつ並ぶ。これに対し627で

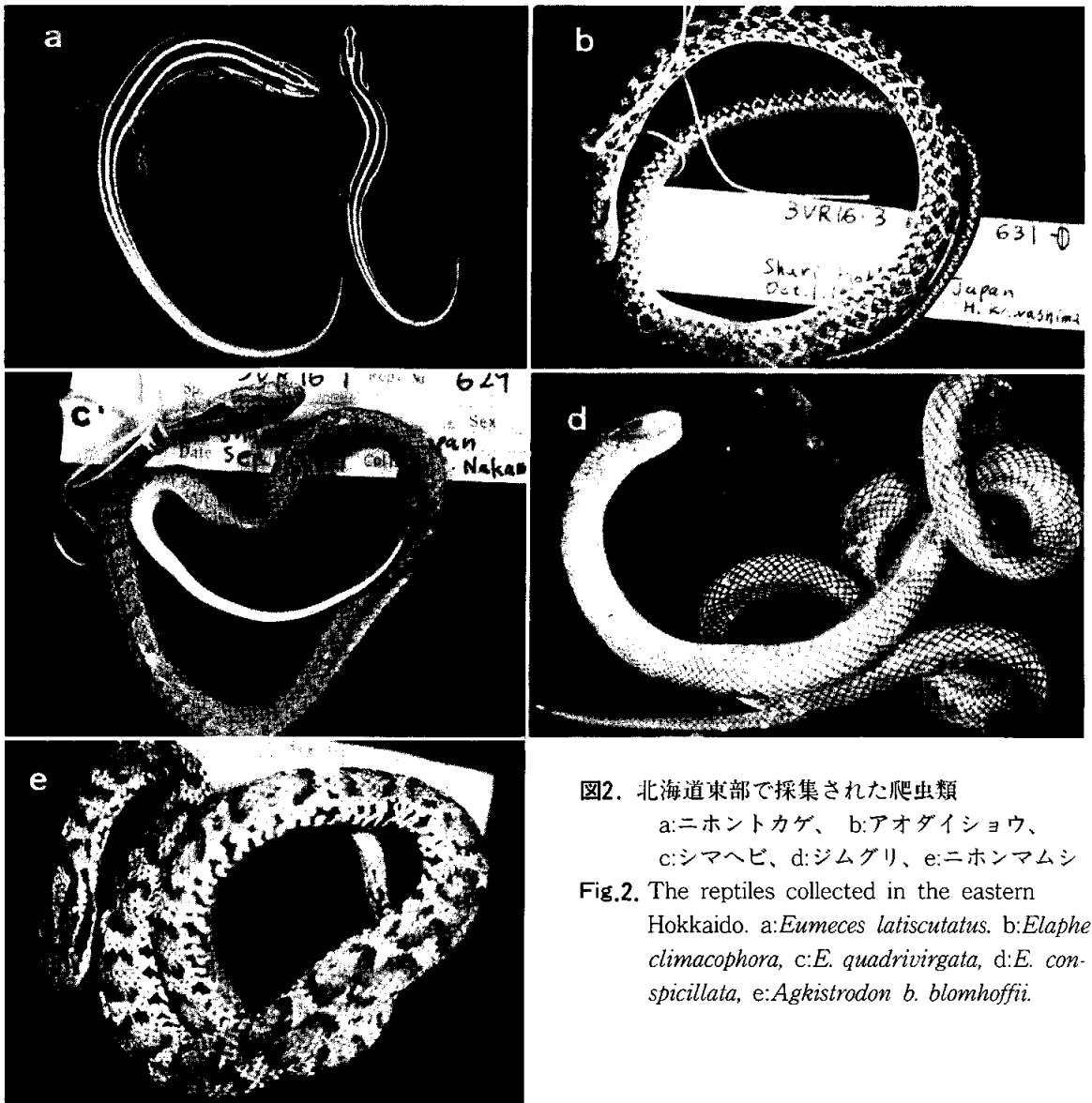


図2. 北海道東部で採集された爬虫類

a:ニホントカゲ、 b:アオダイショウ、  
c:シマヘビ、 d:ジムグリ、 e:ニホンマムシ

Fig.2. The reptiles collected in the eastern Hokkaido. a:*Eumeces latiscutatus*. b:*Elaphe climacophora*, c:*E. quadrivirgata*, d:*E. conspiciolata*, e:*Agkistrodon b. blomhoffii*.

は左右の暗褐色紋は背中上でゆ合し、環状の暗帯を形成している。腹面には淡褐色の地に黒褐色の斑紋が多数見られ、眼の後方には顕著な暗帯がある。

体鱗には強いキールがあり、鱗列数は雌雄各々23-21-17、22-21-19、腹板数および尾下板数は141と46、139と47である。

#### 論 議

北海道産のシマヘビの黒化型はSlevin(1930)

やMaki(1931)も報告しており、その出現頻度は比較的高いと思われる。今回の標本を含む日本各地のシマヘビの腹板数と尾下板数を表3に示す。これらのデータは太田の標本のものにMaki(1931)、Okada(1938)、高良(1962)、深田(1979)のものを加えた。これらの平均、分布範囲、標準偏差を図示すると図3のようになる。

Slevin(1930)は北海道南西部で採集された雄4個体、雌3個体の腹板数と尾下板数(腹板数平

表3. 日本各地におけるシマヘビの腹板数と尾下板数

Table 3. The number of ventrals and subcaudals in *E. quadrivirgata* from each district of Japan.\*

district	sex	ventrals				subcaudals			
		n	mean	s	range	n	mean	s	range
Kyushu	male	6	211.3	2.87	207-215	4	93.0	0.71	92-94
	female	10	202.5	3.44	197-207	10	85.6	2.01	82-88
Shikoku	male	7	208.9	2.53	205-214	6	89.7	2.75	87-95
	female	19	199.2	3.30	191-205	19	81.4	4.37	74-89
Kinki.Chubu	male	23	204.5	4.47	198-216	21	89.0	4.46	81-97
	female	19	199.2	3.30	191-205	19	81.4	4.37	74-89
Kanto	male	13	206.6	2.62	201-211	9	85.9	3.35	80-90
	female	13	204.8	3.33	200-211	12	84.9	3.97	81-95
Tohoku	---**	22	201.7	2.94	197-209	22	86.2	2.89	82-91
Shari	male	3	195.0	2.16	192-197	3	78.7	3.30	74-81
	female	3	193.3	3.68	189-198	3	76.0	2.10	73-78

\* Some of the data were taken from Maki(1931), Okada(1938), Takara(1962) and Fukada(1979)

\*\*In Okada(1938), sexual data of the specimens from Tohoku were not given.

均雄;200.7、雌;194.3、尾下板数平均雄;85.0、雌;77.0) が、本州など他の地域のものより少ないことを記している。今回測定した斜里産の標本の値はそれによりさらに小さく、本州・四国・九州の標本の値より明らかに小さい。本種のこの形質は日本列島全体で南西から北東の方向にクライン(形質傾斜)をなしていることがFig.3から推定される。他の3種についてもシマヘビよりさらに標本数が少ないため断定的なことは言えないが、斜里産の標本の腹・尾下板数は他の地域のものに比べて少ないように思われ、今後のより多くの標本に基いた検討が待たれる。

木場(1932)は知床に比較的近い阿寒湖周辺で採集した2標本をアカジムグリ *E. japonica* として報告している。しかしながら腹面が一様に黄緑色であるという従来のアカジムグリの標徴に対し、同標本の腹板は頭部で淡黄色、それより後方では“淡黒色を混ぜる青色”であることも記している。これらの色相は今回ジムグリと同定された斜里産の標本のそれに近い。アカジムグリのもう1つの標徴として、背中周辺の体鱗にキールがない(ジムグリではキールがある)ことが挙げられる。斜里産の標本の背中付近の体鱗には、京都府産のジ

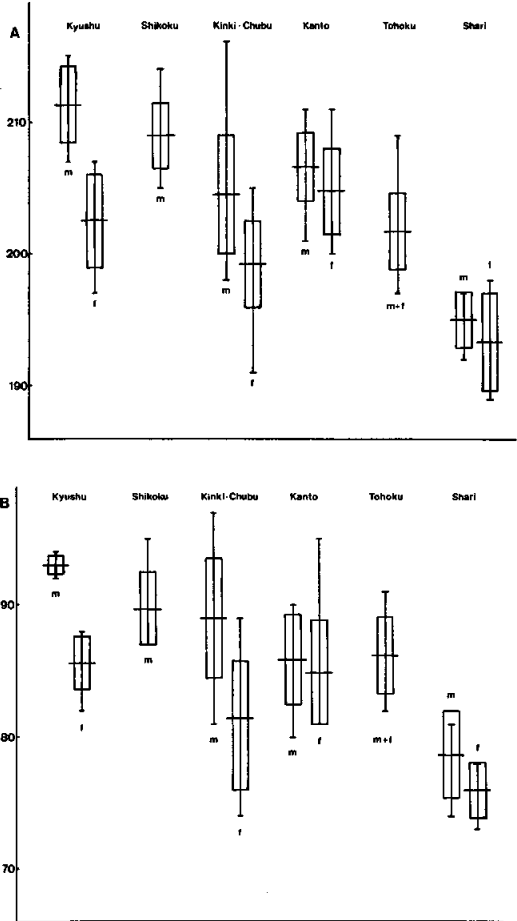


図3. 日本各地におけるシマヘビの腹板数(A)と尾下板数(B)

平均値、標準偏差、分布範囲  
m:雄、f:雌

Fig.3. Means(horizontal bars), standard deviations(squares) and ranges(vertical bars) of the numbers of ventrals(A) and subcaudals(B) in *E. quadrivirgata* from each districts of Japan. m and f represent male and female respectively.

ムグリの場合よりはるかに弱いもののキールが見られ、これらのことから木場(1932)の標本が確かにアカジムグリであるかは疑わしい。北海道にアカジムグリが分布するかどうかは再確認する必要がある。

今回の検討で、上述のような問題を含むアカジ

ムグリと、コモチカナヘビを除くすべての北海道産爬虫類が知床周辺から報告されたことになる。今後コモチカナヘビや、その分布域から北海道への分布も考えられるヨーロッパクサリヘビ *Vipera berus* が発見される可能性は残されており(正田, 1982)、本格的な爬虫類の生息状況の調査が待たれる。

### 引用文献

- Fukada, H., 1956. Biological studies on the snakes. III. Observations on hatchlings of *Elaphe climacophora*, *Elaphe conspicillata*, and *Natrix vibakari*. Bull. Kyoto Gakugei Univ., B, 9:21-29.
- 深田祝, 1979. 滋賀県の爬虫類. 滋賀県自然保護財団編、滋賀県の自然(総合学術調査研究報告)、567-589.
- 八田三郎, 1909. 動物の分布上北海道の位置. 動雑, 22:85-89.
- 正田努, 1982. 日本とその周辺地域の両生爬虫類相. 哺乳類科学, 43:44:87-98.
- 北海道生活環境部自然保護課編, 1981. 知床半島自然生態系総合調査報告書(動物篇). 札幌市, 200pp.
- Inukai, T. und Kozo Mukasa, 1943. Über Reptilien und Amphibien aus den Südkurien, besonders übsr eine seltene fremde Schlange aus der Insel Schikotan. J. Fac. Sci., Hokkaido Imp. Univ., (VI), 9:71-74.
- 犬飼哲夫・太田嘉四夫・阿部永・小林恒明, 1972. 陸上脊椎動物、北海道開発局編、サロベツ総合調査報告書VII 生物部門、3-18.
- 木場一夫, 1932. アカヂムグリ (*Elaphe japonica* Maki) 北海道に分布す. 動雑, 44:486-488.
- Kühne, V. ・八田三郎・橋本潤一郎, 1910. 北海道に於ける両棲類及び爬虫類. 動雑, 22:558-563.
- Maki, M., 1931. A monograph of the snakes of Japan. Dai-ichi Shobo, Tokyo. 240p.+86pls.
- 中村健児・上野俊一, 1963. 原色日本両生爬虫類図鑑. 保育社、大阪、214p.
- Okada, Y., 1938. Reptiles of the Tōhoku-district, the northern part of Honsyū, Japan. Saito Honon Kai Mus. Res. Bull., 15:67-83+3pls.
- 大石実, 1961. 知床半島の動物. 帯広畜産大学知床半島学術調査団編・知床半島学術調査団報告第1報、109-113.
- Slevin, J.R., 1930. Contribution to Oriental Herpetology IV. Hokushu or Yezo. Proc. Calif. Acad. Sci. Ser. IV, 19(10):105-108.
- Stejneger, L., 1907. Herpetology of Japan and adjacent territory. Bull. U.S. Nat. Mus., 58:1-677.
- 高良鉄夫, 1962. 琉球列島における陸棲蛇類の研究. 琉球大学農家政工学部学術報告, 9:1-202, pls.1-22.

## Notes on the Specimens of Reptiles deposited in Shiretoko Museum, Shari, Eastern Hokkaido, Japan.

Hidetoshi Ota<sup>1</sup> and Hajime Nakagawa<sup>2</sup>

1. Department of Zoology, Faculty of Science, Kyoto University. Kitashirakawa, Sakyo, Kyoto 606.
2. Shiretoko Museum, Shari, Hokkaido 099-41, Japan.

ABSTRACT: The specimens of reptiles, collected around Shiretoko, easternmost area of Hokkaido, and deposited in Shiretoko Museum, were assigned to five species—*Eumeces latiscutatus*, *Elaphe climacophora*, *E. quadrivirgata*, *E. conspicillata* and *Agkistrodon b. blomhoffii*. The colorations and scutellations of these specimens were described and discussed briefly.

# 正 誤 表

	誤	正
/ ページ		
本文左段下から4行目	自然公布	自然分布
18ページ 発行年	1982	1985
20 " "	"	"
36 " "	"	"
38 " "	"	"
40 " "	"	"
42 " "	"	"
48 " "	"	"
50 " "	"	"
52 " "	"	"
54 " "	"	"
55 " "	"	"
56 " "	"	"
58 " "	"	"
60 " "	"	"
62 " "	"	"
64 " "	"	"
66 " "	"	"
68 " "	"	"
70 " "	"	"
70 " 写真 / /	(石鏝一頁石、	(石鏝一頁岩、